

平成 15(2003)年 1月～6月 **長期漁況海況予報** 平成 15(2003)年 1月発行

大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦

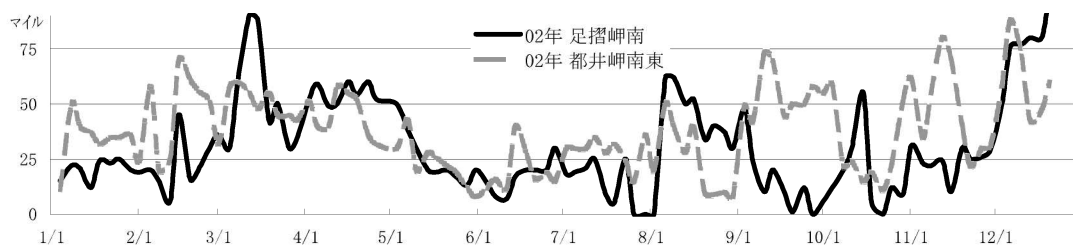
Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 14 年後期>

■黒潮

平成 14 年 7 月上旬九州南東沖に小蛇行が形成され、7 月中旬～下旬九州東沖で発達した後、8 月上旬～中旬に足摺岬沖～潮岬沖へ東進し、8 月下旬潮岬沖を通過しました。8 月下旬及び 10 月下旬九州南東沖に小蛇行が形成され、それぞれ 9 月、11 月に四国沖を東進、通過しましたが、足摺岬沖～潮岬沖の離岸規模はいずれも小さいものでした。12 月上旬九州南東沖に小蛇行が形成されました。これら小蛇行の通過や離接岸変動に伴って 7 月中旬～下旬豊後水道外域に、8 月中旬～下旬日向灘に、12 月上旬豊後水道外域に暖水波及が起きました。また、10 月九州東沖～四国沖を冷水渦が移動し、離岸現象が見られました。

黒潮北縁と足摺岬及び都井岬との距離の状況は、期間中、離接岸を繰り返しました(図 1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報による)

■水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m及び75m層)は、「高め」～「やや低め」でした(表1)。大分県側の海域を北部(沿岸定線Sta.1-9)、中部(同Sta.10-16)及び南部(同Sta.17-22)に分けると、北部では7月、9-10月は「やや高め」、8月は「高め」の傾向となり、11-12月は「平年並」～「やや低め」となりました。中部では8月は「やや高め」、9-10月、12月は「平年並」の傾向となり、11月は「平年並」～「やや低め」となりました。南部では8月は「高め」、9月は「やや高め」～「平年並」、10-12月は「平年並」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の水温(0m、10m、20m、30m及び50m層)は、「きわめて高め」～「低め」でした(表2)。10月に伊予灘で「高め」、別府湾で「きわめて高め」～「高め」となった他は、期間中、「やや高め」～「平年並」の傾向となりました。

■塩分

豊後水道の塩分は、「きわめて高め」～「平年並」でした。8月に南部20m層で「きわめて高め」、11-12月に北部で「高め」となった他は、期間中、「やや高め」～「平年並」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の塩分は、「高め」～「低め」でした。8月に「やや高め」～「平年並」となった他は、期間中、「高め」～「やや高め」の傾向となりました。また、7月に別府湾0m層で「低め」となりました。

表1 水温の年平均偏差評価（豊後水道2002年）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(北部)	0m	+-	++	+	+	-
	10m	+	++	+	+	-+
	20m	+	++	+	+	-+
	30m	+	++	+	+	-
	50m	+	++	+	+	-+
	75m	+	+	+	+	-
	(中部)	0m		+-	+-	-+
10m			+-	+-	+-	-+
20m			+	+-	+-	-
30m			+	+-	+-	-
50m			+	+-	+-	-
75m			+	+-	-	+-
(南部)		0m		+	+-	-+
	10m		+	+	-+	-+
	20m		++	+	+-	+-
	30m		++	+	+-	+-
	50m		++	+-	+-	-+
	75m		++	+-	+-	+-

*7月の中部・南部は欠測

表2 水温の年平均偏差評価（伊予灘・別府湾 2002年）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(伊予灘)	0m	-+	+	+	++	-+
	10m	-+	+-	+	++	-+
	20m	+	+	+	++	-+
	30m	+-	+-	+	++	-+
	50m	+	+	+	++	-
	(別府湾)	0m	-	+	+	++
10m		-+	-+	+-	+++	+-
20m		+-	+-	+-	+++	-+
30m		+-	+-	+-	+++	-+

注)+++：きわめて高め ++：高め +：やや高め +-：高めの平均並
 -+：低めの平均並 -：やや低め --：低め ---：きわめて低め

海況の見通し＜平成15年前期＞

■黒潮

九州南東沖の小蛇行の一部が平成14年12月後半四国沖を東進し、短期変動を起こすでしょう。平成15年1月後半～2月前半に九州南東沖で小蛇行が再発達し、2月後半～3月に四国沖を東進し、3月後半～4月前半に室戸岬沖～潮岬沖で接岸傾向となるでしょう。九州南東沖では3月後半に接岸傾向に戻るでしょう。5月～6月は接岸傾向で推移するでしょう。そして、黒潮の小蛇行の通過や小規模な離接岸変動に伴って沿岸域への一時的な暖水波及が起きるでしょう。

■水温

「平均並」～「高め」でしょう。

■予測の根拠

中央水産研究所及び関係都県：平成14年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2002)
 福岡管区气象台：九州北部地方3か月予報(2002)、九州北部地方寒候期予報(2002)

資源状況と漁況経過<平成 14 年後期>

■マイワシ

■ 昨年までの経過

大分県漁協鶴見、米水津及び蒲江支店のまき網(以下、「県南まき網」という)によるマイワシの漁獲量は、1986年以降の1990年までの間は、年間30,000トン前後あり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月に主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も、1993年に一旦、増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は1998年まで8年連続で減少し、1999年は前年に比べ僅かながら増加しましたが、2000年は再び減少し、約450トンと過去最低値を記録しました。そして、2001年は1月下旬から2月中旬にかけてまとまった漁獲があり、約1,750トンと5年ぶりに1,000トンの水準を超えました(図2)。

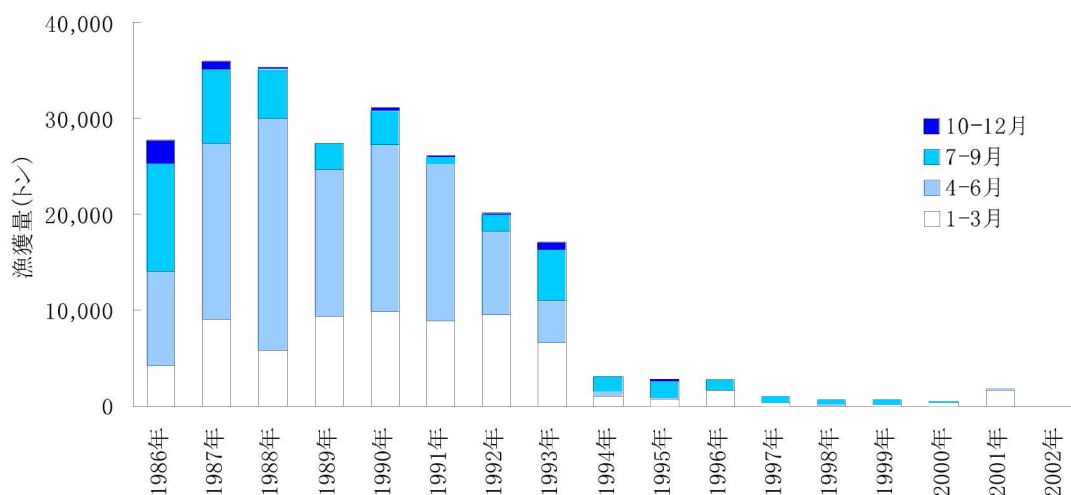


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 本年の経過

2002年後半の月別漁獲量は、7月に数十kg程度の漁獲があったのみで、漁のない著しい不漁が継続し、この時期の漁獲としては過去最低値を記録しました。

■カタクチイワシ(成魚)

■ 昨年までの経過

県南まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年(偶数年)で2,000~3,000トン程度、漁獲の少ない年(奇数年)で1,000トン前後の漁獲となっていました。しかしながら、1999年には1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続ぎ、過去最高の漁獲となりました。平年の漁期は6月から9月までが中心であり、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。そして、2000年は約2,100トン、2001年は約2,800トンと比較的高水準の漁獲となりました(図3)。

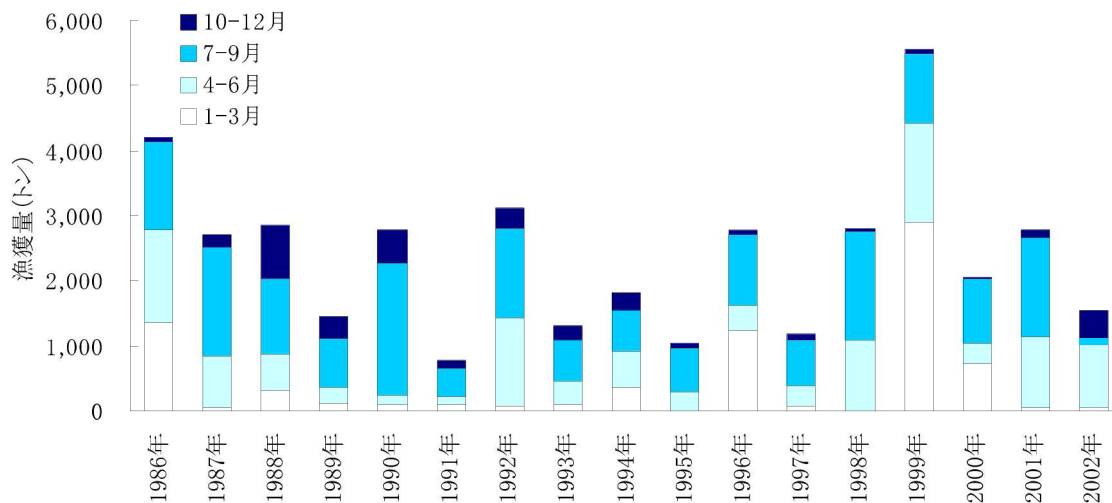


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 本年の経過

2002年後半の月別漁獲量は、各月7～313トン、平年比3～596%となりました。このうち、7～9月の四半期は100トン、平年比9%と低調で、10月も7トン、平年比6%と不漁が継続しましたが、11月は313トン、平年比596%と豊漁に転じ、この時期の漁獲としては過去最高値を記録しました(以下、県南まき網の平年値を1986～2001年の平均漁獲量とする)。

■カタクチイワシ(シラス)

■ 昨年までの経過

佐伯湾(佐伯・鶴見)の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年には200トンを割り込みましたが、その後は1993年以前の水準には及ばないものの増加傾向を示しました。しかしながら、2001年は約160トンと過去最低の漁獲となりました。

別府湾(杵築・日出)では、1991年以降1,200～2,200トンの範囲で変動しましたが、1998年に初めて1,000トンを割り込み、約750トンと過去最低値を記録しました。そして、1999年以降は再び1,000トンを超える水準となりましたが、減少傾向を示しました。

臼杵・津久見湾では、1991年以降0～106トンの範囲で大きく変動しており、2001年は13トンで、平年比36%となりました(以下、船曳網の平年値を1991～2001年の平均漁獲量とする)。

《 推計方法:別府湾の漁獲量=製品(ちりめん)重量×2.514、豊後水道の漁獲量=製品(ちりめん)重量×2.380 》

■ 本年の経過

2002年後半の月別漁獲量は、佐伯湾では各月9～80トン、平年比24～156%となりました。このうち、7～9月の四半期は71トン、平年比77%、10月は80トン、平年比156%、11月は9トン、平年比24%となりました。

別府湾では各月41～218トン、平年比25～136%となりました。このうち、7～9月の四半期は465トン、平年比68%、10月は146トン、平年比136%、11月は41トン、平年比32%となりました。

臼杵・津久見湾では7～9月は漁獲がなく、10月は5トン、平年比224%、11月は1トン、平年比23%となりました。

■ウルメイワシ

■昨年までの経過

県南まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でしたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかしながら、1997年以降は減少傾向に転じました。そして、2001年は約1,040トンと、3年ぶりに1,000トンを超える水準となりました。漁獲は主に夏期の6～8月に多くなりますが、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました(図4)。

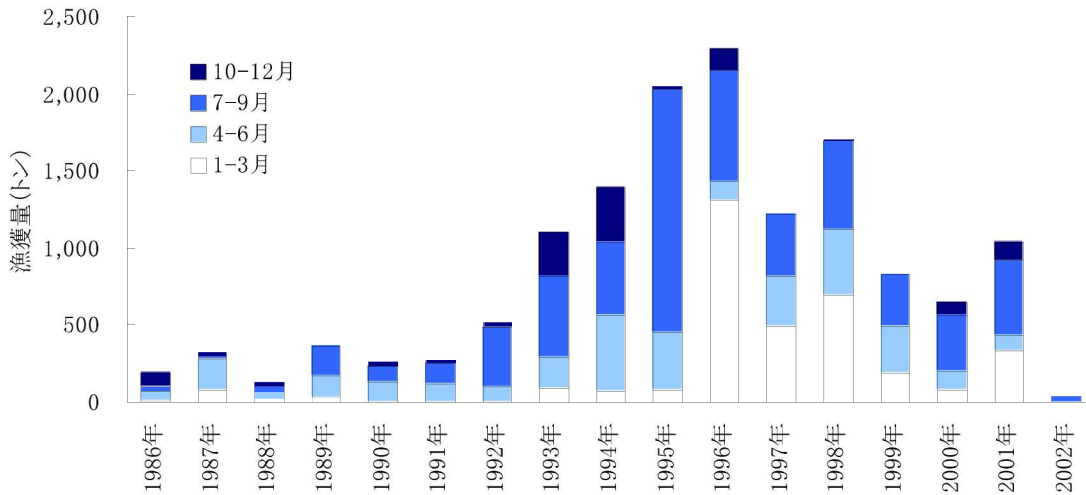


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見町・米水津村・蒲江支店)

■ 本年の経過

2002年後半の月別漁獲量は、7月、8月ともに11トン、10月に0.1トンの漁獲があったのみで、平年比は7月が6%、8月が9%、10月が0%と大低迷しました。

■マアジ

■ 昨年までの経過

県南まき網によるマアジの漁獲量は、1986年以降減少傾向を示し、1991年に1,000トンを超えましたが、1992年以降は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で過去最高値を記録しました。しかしながら、1999年以降は減少傾向となり、2001年は年前半の不漁により約2,270トンと低迷しました(図5)。

また、大分県漁協佐賀関支店の釣りを中心とするマアジの漁獲量は、1988年以降増加傾向が継続し、1999年には248トンに達し過去最高値を記録しました。しかしながら、2000年は一転して170トン、平年比83%と落ち込み、これまでの安定的な増加傾向が止まった形となりました。そして、2001年は196トン、平年比96%と前年を上回り、平年をやや下回る漁獲となりました(以下、佐賀関支店の平年値を1988～2001年の平均漁獲量とする)。

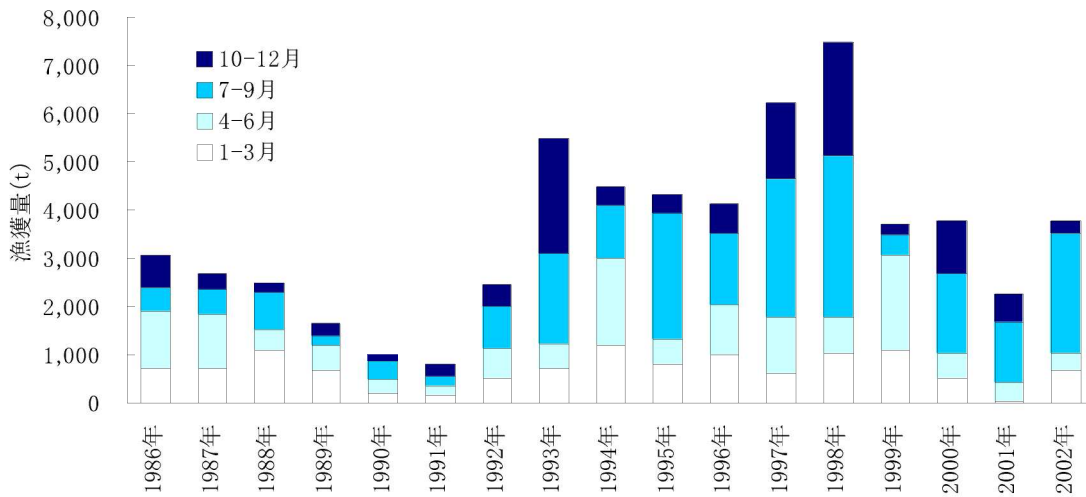


図5 マアジのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江支店）

■ 本年の経過

県南まき網の2002年後半の月別漁獲量は、各月53～1,409トン、平年比28～291%となりました。このうち、7～9月の四半期は2,474トン、平年比198%と好調で、特に9月は小サイズを中心に1,409トン、平年比291%の豊漁となりました。しかしながら、10月は220トン、平年比48%、11月は53トン、平年比28%と不漁に転じました。

佐賀関支店の月別漁獲量は、各月12～28トン、平年比79～149%となりました。このうち、7～9月の四半期は63トン、平年比112%、10月は19トン、平年比105%、11月は12トン、平年比79%となりました。

■ マサバ・ゴマサバ

■ 昨年までの経過

県南まき網による「さば類(マサバ・ゴマサバ)」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをあげて豊漁となりました。しかしながら、1998年は一転してほとんど漁獲がなく、1986年以降初めて1,000トンを割り込みました。そして、1999年からは低水準ながら増加傾向を示しましたが、2001年は大不漁となり、約690トンと過去最低値を記録しました(図6)。「さば類」のうち、1994年以降はゴマサバが漁獲主体で、マサバの漁獲はほとんどない状況でしたが、2001年にはマサバの占める割合が比較的高い傾向がみられました。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動しました。1998年以降は120トン前後で横ばい傾向となりました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

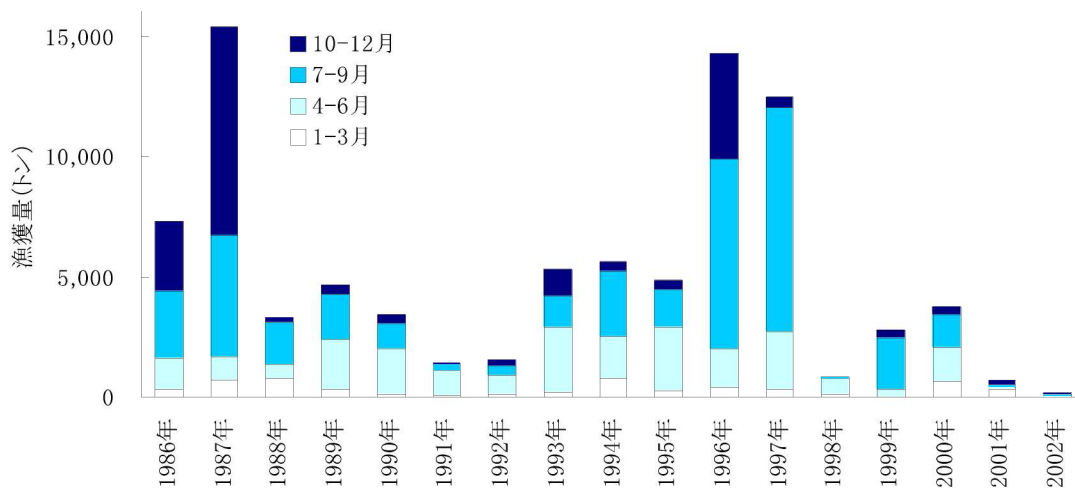


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江支店）

■ 本年の経過

県南まき網の2002年後半の月別漁獲量は、各月9～47トン、平年比1～9%と、前年からの不漁が継続し、さらに大低迷しました。このうち、7～9月の四半期は74トン、平年比3%、10月は47トン、平年比6%、11月は9トン、平年比2%となり、この時期の漁獲としては過去最低値を記録した1998年並みの漁獲となりました。また、昨年と同様に「さば類」のうち、マサバの占める割合が高い傾向を示しました。

佐賀関支店のマサバの月別漁獲量は、各月5～14トン、平年比66～287%となりました。このうち、7～9月の四半期は28トン、平年比96%、10月は14トン、平年比287%、11月は9トン、平年比108%となりました。

漁況の見通し＜平成 15 年前期＞

■マイワシ

【太平洋系(北薩～熊野灘)の見通し】

来遊量は低調の前年並みか前年を下回るでしょう。

[説明]資源量は1995年から2000年までは低水準ながら比較的安定していましたが、2001年から再び減少傾向が顕著となりました。2000年級群、2001年級群の残存量は少なく、2002年級群の加入量水準は極めて低いと考えられます。

【大分県の見通し】

漁獲量は比較的大きな周期で増加あるいは減少すると考えられ、来遊水準は直前の漁獲水準と相関が高い傾向にあります。漁況経過からみると、2002年の漁獲量は過去最低値を記録しており、来遊は極めて低いままで、依然として低水準でしょう。



■カタクチイワシ

【太平洋系(北薩～紀伊水道西部の成魚)の見通し】

来遊量は北薩では前年を下回り、日向灘では好漁の前年を下回るでしょう。豊後水道西部では前年並み、東部では前年並みで少ないでしょう。土佐湾及び紀伊水道西部では前年を下回るでしょう。

[説明]資源水準は高位、横ばい傾向にあると考えられますが、漁況経過からみると、一概に好調とは言えず、来遊の低調な海域が多くみられます。

【大分県の見通し】

成魚については、漁況経過からみると、2002年7～10月は前年を下回りましたが、11月以降は前年を大きく上回ったことから、来遊水準は回復・増加傾向に向かっていると考えられ、前年・前年並みでしょう。

シラスについては、漁況経過からみると、佐伯湾、別府湾ともに、総じて2002年前半から不漁が継続していましたが、9月以降は前年を上回る漁獲に転じ、11月はシラスの漁獲は少ないものの、かえり・いりこサイズが豊漁となったことから、来遊水準は回復・増加傾向に向かっていると考えられ、不漁の前年を上回り、前年並みでしょう。



■ウルメイワシ

【太平洋南部系(北薩～熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩から薩南海域では前年、前年を上回り、日向灘では前年並みか前年をやや上回るでしょう。豊後水道西部では近年最低の前年を上回るが前年を大きく下回り、東部では前年を下回るでしょう。土佐湾では前年、前年を下回るでしょう。紀伊水道西部では前年並みか前年を下回り、東部では前年並みの低調でしょう。熊野灘では前年並みか前年を上回るでしょう。



[説明]資源水準は中位、横ばい傾向にあると考えられます。漁況経過からみると、一部の海域を除き、低調な海域が多くみられます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は2001年12月以降激減していると考えられ、大不漁となった前年は上回るが、平年を大きく下回るでしょう。

■マアジ

【太平洋系(薩南～日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量は日向灘、豊後水道東部(うち、北部及び中部)では前年を下回るが、その他の海域では前年並みか前年を上回るでしょう。



[説明]資源量は良好な加入に支えられて1990年代に入り高水準で推移してきましたが、1997年以降、加入の減少とともに3年連続して減少しました。2001年には良好な加入により、資源は高水準に転じました。そして、2002年の加入水準は2001年より低いと推察され、その来遊量は海域によって高低があります。なお、2003年級群は予測期間の後半には加入してきますが、現在のところその来遊量は予測できません。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は2002年7～9月の高水準から、10月以降は減少傾向にあると考えられますが、当該時期の漁獲量は前年7～12月の「小」漁獲量と比較的高い相関($r=0.80$)があり、これから2003年前期の漁獲量を推定すると約1,735トン(前年比169%、平年比115%)となります。従って、総合的に判断すると、前年並みで、平年を下回るでしょう。

■マサバ・ゴマサバ

【太平洋系(薩南～日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量はゴマサバ1歳魚は少なかった前年並み、2歳以上は少なく、ゴマサバとしては前年並みでしょう。マサバは低い水準でしょう。さば類全体としては、前年並みの低水準でしょう。



[説明]ゴマサバの資源量は近年では1996年級群が卓越年級群であり、1999年級群の豊度が次いで高いと推定されます。2000年級群の豊度は太平洋側全体としては、1999年級群より低いですが、豊度が低かった1997年、1998年と比較しては高いと言えます。2001年級群の豊度は2000年級群にはやや及ばないが、1997年、1998年と比較しては高いと現状では推定されます。2002年級群については、調査船調査結果から比較的高い加入量指数が得られていますが、これが直ちには漁況に結びついていない状況です。ゴマサバの資源水準は中位、横ばい傾向にあると考えられます。また、マサバの資源水準は低位、減少傾向にあると考えられます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は非常に低い状態で停滞していると考えられ、不漁の前年並みで、平年を大きく下回るでしょう。

その他

■予測の根拠

中央水産研究所及び関係都県：平成14年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2002)

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部まで
(〒879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155 ファクシミリ0972-32-2156 e-mail :
kimura@mfs.pref.oita.jp)